

3. その他  
該当なし

〔参考データ〕

- 参考1：子宮頸癌罹患率推定値（2006年）  
地域がん登録全国推計によるがん  
罹患率データ（独立行政法人国立  
がん研究センターがん対策情報  
センター がん情報サービス）
- 参考2：財団法人日弁連交通事故相談セン  
ター編「交通事故損害賠償額算定基  
準」2008年
- 参考3：東京三弁護士会交通事故処理委員  
会・（財）日弁連交通事故相談セン  
ター東京支部共編「民事交通事故訴  
訟損害賠償額算定基準」2008年
- 参考4：政府統計の統計表 平成20年患者  
調査「退院患者平均在院日数」
- 参考5：日本婦人科腫瘍学会編「子宮頸癌  
治療ガイドライン（2011年版）」
- 参考6：金融庁・国土交通省・平成13年  
告示第1号「自動車損害賠償責任保  
険の保険金及び自動車損害賠償責  
任共済の共済金等の支払基準」
- 参考7：日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍  
委員会報告（2010年度患者年報）
- 参考8：2010 独立行政法人国立がん研究対  
策情報センター（1998～20  
02年）
- 参考9：厚生労働化学研究費補助金効果的  
医療技術の確立推進臨床研究事業  
「がんの社会学」に関する合同研  
究班編「がんと向き合った 7,885

人の声」

- 参考10：NPO 法人がん患者団体支援機構・  
ニッセンライフ共同実施アンケー  
ト

## 厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）

### 研究分担報告書

平成23年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業

「より有効ながん医療政策の決定に資する、がん対策に対する医療経済評価に関する研究」

（課題番号：H23-がん臨床-一般-018）

## がん患者の精神社会的費用に関する研究

研究分担者 齊藤秀之 筑波記念病院リハビリテーション部 部長

研究協力者 高井真希子 東京都リハビリテーション病院作業療法士科員

研究協力者 高橋雅美 筑波記念病院つくば血液病センター センター員

### 研究要旨

がんに関わる精神社会的費用について検討した。既存の文献には、がんの精神社会的費用について詳細に検討された文献は見られなかった。本研究では、生活の質（Quality of life）を維持するための費用を、がんリハビリテーションという視点で検討することとした。

#### A. 研究目的

本研究の目的は、がんに関わる精神社会的費用を明らかにすることである。精神社会的費用は、がん罹患したことによる生活の質の低下に伴う費用を示す<sup>1</sup>。本研究では、生活の質を維持するための費用を、がんリハビリテーションによる生活の質の維持という視点で検討する。初年度は、がんの精神社会的費用、及び、がんリハビリテーション費用に関する文献について調査した。

#### B. 研究方法

まず、「がん・精神社会的費用」を含む国内・海外の文献検索を行った。

次に、「がん・リハビリテーション・外来患者・運動」「がん・在宅・リハビリテーション・費用」「がん・在宅・リハビリテーション・QOL」それぞれを含む国内・海外の文献検索を行った。

#### C. 研究結果

「がん・精神社会的費用」を含む文献は、国内1件、海外7件であった。

また、「がん・リハビリテーション・外来患者・運動」を含む文献は、国内 27 件・海外 30 件、「がん・在宅・リハビリテーション・費用」を含む文献は、国内 14 件・海外 16 件、「がん・在宅・リハビリテーション・QOL」を含む文献は、国内 15 件・海外 15 件であった。

上記文献を調査したところ、乳がん患者に関するがんリハビリテーションについての文献は多く見られたが、精神社会的費用を詳細に論じたものは無く、精神社会的費用の算出に資する文献は見られなかった。

#### D. 考察

現時点では、精神社会的費用について詳細に検討された文献は無いことが判明した。これは、精神社会的費用を客観的に数値化することが難しいためと思われる。

がん患者にとって、精神社会的費用をがんの費用として具体的にイメージすることは難しい。しかしながら、日常生活を送る上で、直接費用や間接費用以外に精神社会的費用が発生することを知ることは、がん予防等に対する意識を変える重要な要素になり得る。詳細な先行研究が無いことを踏まえ、本研究では、がんリハビリテーションを行うことで生活の質が保たれるリハビリテーション・モデルをがん腫別に設定し、モデルケースのリハビリテーション費用を算出することを検討している。次年度は、胃がん、血液がん、肺がん等のモデルケースについて研究する予定である。平成 23 年 10 月 21 日に、近隣リハビリテーション関

係者 61 名による「がん患者に対するリハビリテーションの取り組み」研修会を開催し、情報収集に対する組織化活動を行った。今後、モデルケース設定にあたっては、研修会参加者の協力も促す予定である。

#### E. 結論

精神社会的費用について詳細に検討された文献は無いことが判明した。次年度以降は、がんリハビリテーションによる生活の質の維持という視点でがん腫別の典型的なモデルケースを策定し、費用を算出する。

#### F. 研究発表

1. 論文発表：該当なし
2. 学会発表：該当なし
3. その他：なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：該当なし
2. 実用新案登録：該当なし
3. その他：なし

#### H. 参考文献

- <sup>1</sup> J Cancer Surviv. 2010;4;202-209

